

風水害への備え

台風への備えと注意点



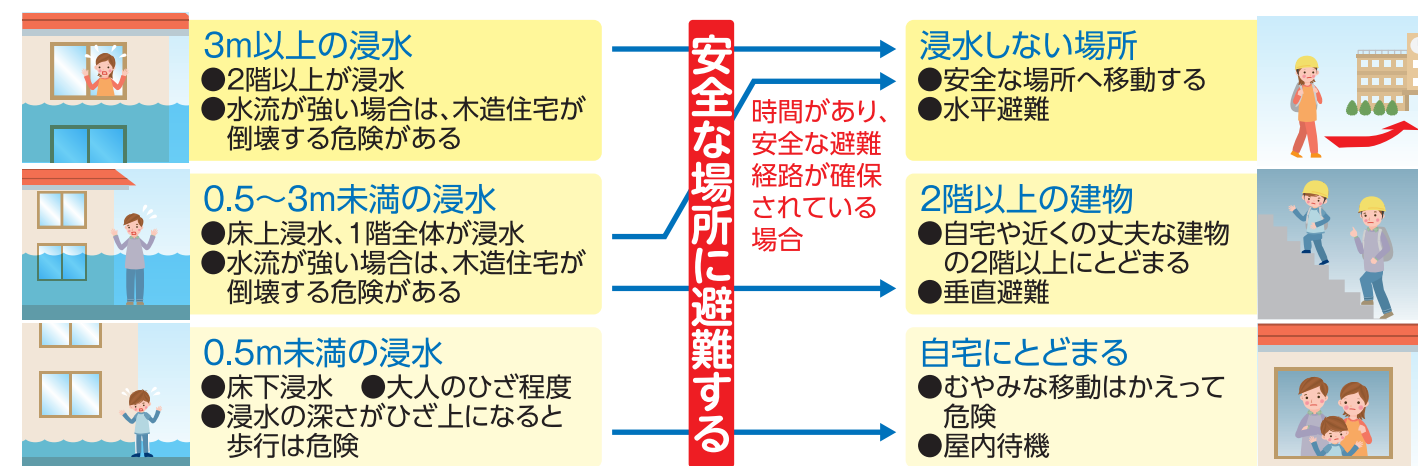
台風が接近しているとき

- 防災行政情報放送設備の放送に注意しましょう(告知端末の乾電池の確認を忘れずに)
- テレビやラジオで最新の気象情報を入手しましょう
- 停電に備えましょう(懐中電灯や携帯ラジオ、予備の乾電池などをあらかじめ準備しましょう)
- 家の周りや水路などに置いている物などを片付けましょう(強風で物が飛ばされる、水路が詰まるなどの災害を未然に防ぎましょう)

台風が来たとき

- 早めの自主避難を心がけましょう(雨風が強くなってからの避難は危険なため早めに行動を)
- 役場からの避難情報に注意しましょう
- 最新の気象情報に注意しましょう

浸水被害から身を守る



大雨・洪水、土砂災害避難時の心得

避難時の服装

履きなれた運動靴
※長靴は水が入るので履かない!

防寒具(上着)

レインコート

歩行可能な水深はひざ下まで(流れがある場合は足首まで)。階段やマンホールなどに注意して、杖などを使って足元を確認しながら避難する。

増水した河川には近づかない。あらかじめ河川から離れた避難経路を確認する。

がけなどの危険箇所には近寄らない。事前に危険箇所から離れた避難経路を確認する。

台風が来る前に対策する

台風が近づいているときは自宅の周りを再度チェックする

家の外の安全対策

被害を軽減するために、日ごろから家屋などの周りを点検し、万全の対策を立てておきましょう。

庭木

- 枝が飛ばされないよう日頃から剪定をしておく
- 倒木とならないように日頃から木の状況を確認する(根腐れ・枯れ木等)

屋根

- アンテナを補強する
- 屋根材が風で飛ばないように点検する(作業は雨風の強くない時に行う)

雨どい

- 継ぎ目のはがれ、塗装のはがれなどを確認する
- 落ち葉や土砂が詰まっていたら取り除く

窓・雨戸

- 窓枠のガタツキがないか確認する
- 雨戸はきちんと閉まるか確認する

排水溝・側溝

- 排水溝・側溝を清掃し、水の流れを悪くする落ち葉や土砂などを取り除く

ブロック塀

- ひび割れや傾きがある場合は修理する
- 控え壁、鉄筋がないブロック壁は補強する

土のう

- 玄関が低い場合は、土のうを用意しておく

家のまわり

- 風で飛ばされそうなものを片付ける(植木鉢・自転車・物干し竿等)

集合住宅の安全対策

通路・階段

- 安全に避難できるよう通行の妨げになるようなものがないか確認する

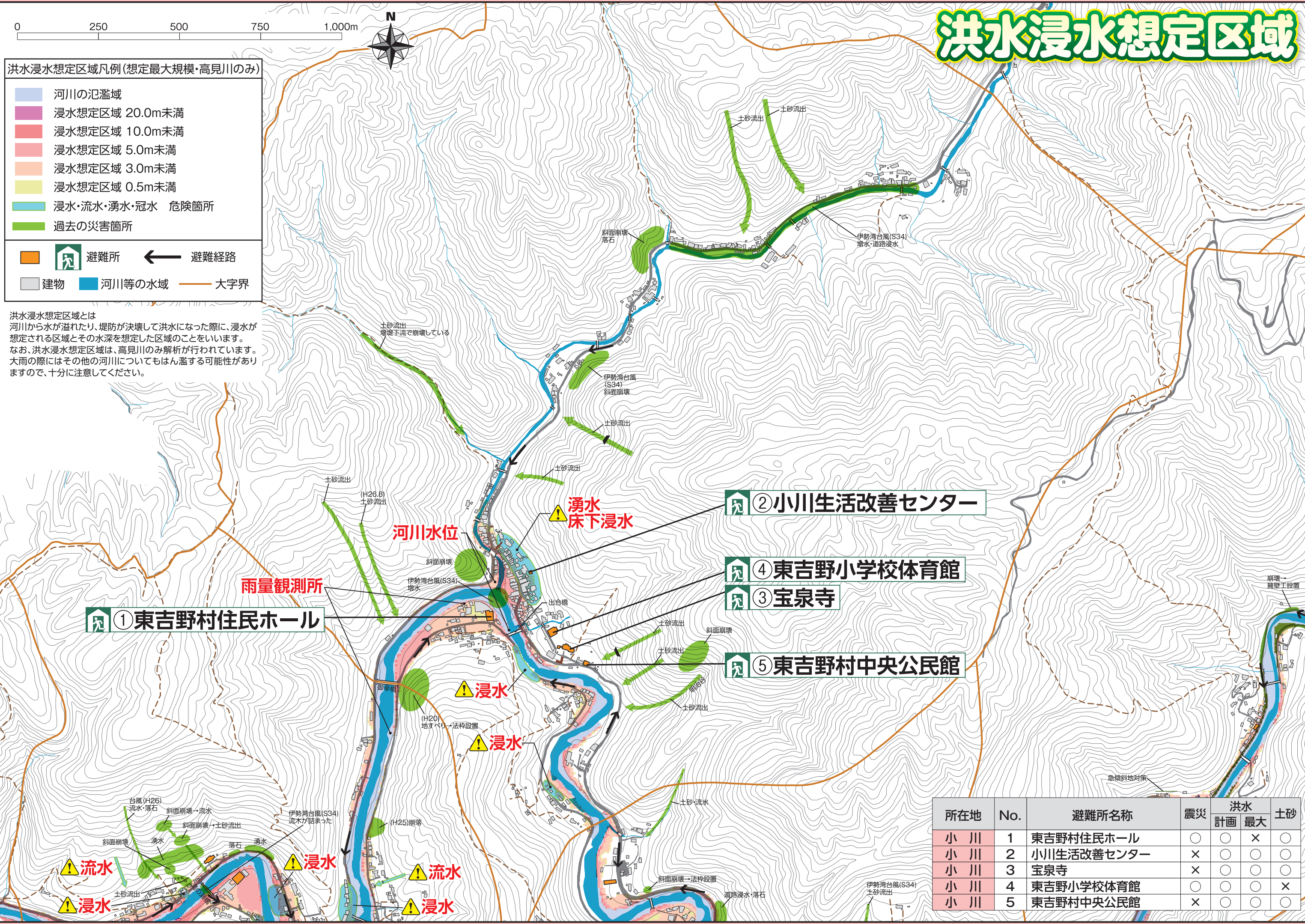
ベランダ

- 避難はしごの使用方法や、使用を妨げるものがないか確認する

防災用具・防火設備

- 消火器や住宅用火災警報器、受信機(防災監視盤)などの場所を確認する

洪水浸水想定区域



洪水浸水想定区域凡例(想定最大規模・高見川のみ)

- 河川の氾濫域
- 浸水想定区域 20.0m未満
- 浸水想定区域 10.0m未満
- 浸水想定区域 5.0m未満
- 浸水想定区域 3.0m未満
- 浸水想定区域 0.5m未満
- 浸水・流水・湧水・冠水 危険箇所
- 過去の災害箇所

避難所 避難経路

建物 河川等の水域 大字界

洪水浸水想定区域とは
河川から水が溢れたり、堤防が決壊して洪水になった際に、浸水が
想定される区域とその水深を想定した区域のことをいいます。
なお、洪水浸水想定区域は、高見川のみ解析が行われています。
大雨の際にはその他の河川についてもはん濫する可能性があり
ますので、十分に注意してください。

所在地	No.	避難所名称	震災	洪水		土砂
				計画	最大	
小 川	1	東吉野村住民ホール	○	○	×	○
小 川	2	小川生活改善センター	×	○	○	○
小 川	3	宝泉寺	×	○	○	○
小 川	4	東吉野小学校体育館	○	○	○	×
小 川	5	東吉野村中央公民館	×	○	○	○